

九条の樹 52

2014年10月



東久留米「九条の会」ニュース

発行：東久留米「九条の会」

代表者 古田足日・連絡先 鈴木Tel.042-473-9489

<http://members3.jcom.home.ne.jp/higashikurume9/>

メール：higashikurume9@jcom.home.ne.jp

日本国憲法 第9条

①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

古田足日の意志を継いで

古田文恵

（九月六日、生涯学習センターでの東久留米九条の会9周年のつどい 古田文恵さんのあいさつより）

今日は東久留米九条の会九周年おめでとうございます。

九年前、市役所で東久留米「九条の会」を始めたときには、私などは憲法九条について言葉は知っていましたが、小森陽一さんが、クイズを出して「憲法は国民が守るべき最高の法律と思う人」と言われて、はいと手を上げました。そうしたら小森さんが、憲法は政府に縛りをかけて国民を守るためのものだとおっしゃって、あそうかと思いました。

何も知らなかったのですが、その後、古田のそばにいたものから、いろいろ彼から話を聞きました。

私は昭和五年生まれです。昭和

八年生まれの人から学校で新しい憲法を教わって、私より三年ぐらいたの下の人が国民の権利意識に目覚めているなと思いました。私などは新しい憲法から外れて育ってきたので意識的に新しい憲法を読まないし、その意義が分からなかったんです。九条の会が出来てから、新婦人が出している「新しい憲法の話」のパンフを読んだりして少



古田文恵さん

しずつ、憲法と一緒に育ってきたと思っっています。

古田の方は四年ほど前に軽い脳梗塞をやりまして、左の方が真つ暗で見えなくなつたんです。ご飯のときおかずが左側にあると見えなくて食べなかつたりしました。だんだん慣れてきて本も読めてき

ました。言語野がおかされなかつたものですから、考えたり物を書いたり出来ました。その後心筋梗塞や前立腺がんや前から骨そしう症による骨折を繰り返すなどたくさんの病気を抱えていました。その中で九条の会を含めて戦争にならないためのいろいろな事を考えながら本を読んだり私に話したりしていました。九条の会にも最初は出ていたのですが、足が悪くなつてだんだん出られなくなりました。インタビュで話したこと、を、「九条の樹」に二回ほど載せてもらって喜んでおりました。

体は病気の巣のようでしたが、考えは色々湧いてきて、自分でも新しい戦争児童文学の編集のために力を割いたり、いろいろなことをやっていました。はたから見ていると、弱っては来ているけど、食欲はあるし、まだまだ大丈夫と思つていたので、六月八日明け方眠るように逝つてしまいました。

大往生、安らかな死と思えるの

（2ページへ続く）

(1ページから続き)

ですけど、世の中の情勢がどんどん険しくなる中で、古田は九条が安倍政権の目の敵にされ、戦争への道が開かれようとしていることを心配しておりました。軍国少年だった子どもも時代、愛国心教育で育てられていたことを悪夢のように思い出すと言っていました。

古田はまた安倍政権によって教育基本法が変えられ「道徳」が教科になり評価されることで、子どもの心を縛ってしまっているのではないかと憂いておりました。

古田が亡くなってしまった今、その意志は私たちに託されたと思っています。

九条を守り他国民を殺したり、殺されたりすることもなく、平和の中で育つ子どもということを願いながら逝った古田の意志を継いで、残された人生をしっかりと生きていこうと思っています。



笑い、共感、拍手の東久留米 「九条の会」9周年のつどい

9月6日(土)の午後、まろにえホールで開催された東久留米「九条の会」9周年のつどいに、350名を超える市民の方が参集して盛会でした。

市内在住の二胡演奏者、三浦いさんの演奏で開会、あいさつと事務局からは故古田足日代表・佐野正利副代表を偲ぶ紹介がされた後、古田夫人が、夫は子どもたちの幸せのために憲法九条を守ろう、と力を尽くしたとお話されました。



三浦いさん

「初天神」を熱演。父と子の軽妙な対話としぐさで落語の面白さを堪能しました。

(小山・幸町9条の会 市村)

寄せられた感想など

●わかりやすく9条の大切さが語られ、有意義な話だった。重要なお話で勉強になった。

●平和だから笑えるというところが身にしみました。落語はともおもしろかった。

●二胡の演奏は、素朴で心が和む演奏だった。もっと聞きたかった。

●古田文恵さんのお話ころにしてみた。子どもたちの未来という視点を会の柱の一本に。

●9条そのものを伝える何かかほしい・・・

後半は主役の古今亭菊千代さんによるお話と落語。「9」の字紋の羽織着て、師匠の語る特別な体験的時事談は会場を盛り上げました。憲法に関わって「大事なことをおもしろく」語る話術に笑い拍手が続きました。

最後は高座に上がって落語

これについては、こんご壇上に「9条」を掲示するなど、検討することになりました。

東久留米

憲法共同行動

9月9日(火) 東久留米駅西口で、東久留米憲法共同行動が行われました。10団体60人が参加しました。

9条の会の署名「集団的自衛権行使は海外で戦争をすることであり、平和憲法の破壊です。憲法9条を守り、生かしてください」に取り組み、当日106筆。9周年のつどいで305筆。合計411筆になりました。



9月9日東久留米憲法共同行動(東久留米駅西口)

みんなで「NO」を!

九条の会(井上ひさしさん、大江健三郎さんたちがつづいた)は、集団的自衛権行使容認の閣議決定に抗議し、いまこそ主権者の声を全国の草の根からというアピールをだし、全国の「九条の会」に次のように、呼びかけています。

7月1日、安倍内閣は多くの人々の反対の声を押し切って、集団的自衛権の行使を容認する新たな憲法解釈にもとづいた閣議決定を行いました。これは立憲主義に反して憲法第9条を破壊し、日本を「戦争する国」に変える稀代の暴挙です。今こそ、私たちは主権者として、この度の集団的自衛権行使容認の閣議決定に対して、きっぱりと「NO」の意思を示し、「戦争する国」づくりは許さない」との声をあげるときです。(中略)
九条の会は、全国の草の根から一斉に力を合わせ、運動と世

論を盛り上げ、これらの集団的自衛権行使の具体化のための諸法制に反対するとり組みを強め、集団的自衛権の行使を阻む必要があります。全国のすべての「九条の会」が、その先頭にたつて、創意と工夫をこらした多様な行動に立ちあがることを呼びかけます。

具体的取り組みとして
・本年10月を全国統一行動月間に
・近隣の九条の会で、活動が休止状態になっているところに積極的に働きかける。
・11月24日(月・休)日比谷公会堂で大規模な集会和パレードを行います。

東久留米「九条の会」 これからの取り組み

●毎月9日は「9」の日宣伝
東久留米駅西口で、午後4時～5時。「九条の樹」配布や署名など行っています。お時間のあ

る方はぜひご参加ください。大勢でにぎやかに!
(※11月の9の日宣伝は中止)

●学習会

■日本軍「慰安婦」と九条
11月9日(日) 午後2時～4時
中央図書館視聴覚ホール
講師 塚田勲先生
資料代200円

「朝日」に対して、一部の大手メディアと週刊誌の異常なパッシング。中国侵略戦争と「慰安婦」の関係、今なぜこのような現象が起きているか、などで話し合ってみませんか。

●平和を考える映画会

『ヤマトび煙の唄』
太平洋戦争の頃の沖縄と沖縄戦を舞台にした物語です。内容は家族の尊さを扱った反戦ドラマ。出演は明石家さんま、黒木瞳ほか。

12月6日(土)

中央図書館視聴覚ホール
上映・午後2時(開場13:30)
参加費無料(次回のためにカンパをお願いします)

暗黒の朝

石塚圭子（東京・豊島区）

第二次世界大戦の記憶といえ
ば、七歳の時、父に背負われて
見たある朝の光景です。決して
忘れることはないでしょう。

昭和十九年当時私は小石川に
住まい、小学一年生でしたが、
毎晩のように警戒警報が鳴り響
き、小学校もほとんど休校がっ
づいていました。

五月二十五日の夜、B29襲来。
焼夷弾の投下で空が真っ赤に染
まる中、父と私は伯母一家四人
と共に逃げまどいました。翌日
の明け方、ようやく火もおさま
り、父に背負われて我が家をめ
ざして帰ってくれば、一面焼け
野原で暗黒の世界でした。近づ
くと、真っ黒に見えたのは焼け
焦げた夥しい遺骸の重なりでし
たが、七歳の私には、何が起こっ

たのかわかっていませんでし
た。「どうして、みんな黒くなっ
て寝ているの？」と父に聞けば、
「見るな。目をつぶってろ」と、
初めて聞く怖い声でした。思わ
ず目をつむり、恐ろしいことが
起こったのだと、父の背中で震
えました。

この三か月前に私は母を病気
で亡くしており、五月には家を
焼失。その後程なくして父は兵
役につき、私は伯母一家と共に
茨城へ疎開…と、あまりに目ま
ぐるしい環境の変化に、茫然自
失の状態でした。

その上、疎開先では言葉が通
じず、言われていることが理解
できず、ひと言でも発すると周
囲から笑われるのです。何か聞
かれたら、うなずくか首を横に
ふるかしかできない、もの言わ
ぬ子どもになっていました。

そのころ、いつも願っている
ことが三つありました。

- ①戦争が終わりますように。
- ②父が帰ってきますように。
- ③一日も早く東京に戻りたい。

翌年八月十五日、終戦。

秋にはひよっこり父が疎開先
に現れましたが、私は泣いて怖
がりしました。あれほど待ちわび
ていたのに軍服姿に脅え、本人
とは思えなかったのです。

東京に帰りさえすれば、友だ
ちや近所の人にも会えて、また
元どおりの生活に戻れる、と信
じつづけていた私は、それから
一か月ほどして、父に「東京に
戻るぞ」といわれたとき、大喜
びしました。

ところが、東京に戻っても、
覚えていた景色はどこにもあり
ませんでした。焼け野原に掘っ
立て小屋が建ち並んでいます。
幸い、父は焼け残った長屋を借
りることができましたが、そこ
には色々な人がやってきて泊ま
りこみ、いつも知らない人々で
ひしめき合っていました。



《平和を考える本》

『わたしはマララ』

マララ・ユスフザイ著

クリスティーナ・ラム著



（学研パブリッシング刊）

九九七年、マララは、イス
ラム圏のパキスタンに生まれ
た。女性の教育が許されない
状況下、マララの父は、物事
の是非を知るには何よりも学
問が大切だと、男女共に学べ
る学校作りに尽力した。

十一歳の頃からマララは、
日記をブログに載せ、マスコ
ミのインタビュアーにも自論を
語りはじめた。——世界中の
すべての子どもには教育を受
ける権利があると。

それがテロリストの標的と
なり、襲撃されて瀕死の重傷
を負ったのは、十五歳の時の
ことだ。

何度もの手術に耐えて蘇っ
たマララは、以前にもまして、
教育の必要性を世界中に発信
しつづけている。

（高田）